

# 平成 27 年度決算総括質疑の概要

平成 2 8 年第 3 回二宮町議会定例会

日 時 平成 2 8 年 9 月 1 2 日 (月) 午前 9 時 3 0 分より

No.	質 問 議 員	質問の概要 (本人の提出原稿)
1	二宮 節子議員	<p>1. 平成27年度決算報告によると、一般会計歳入 81億4,100万円で自主財源は、そのうちの55.9%、45億4,900万円。この中の町税は、35億4,700万円で前年対比2.5%のマイナス、9,157万円の減収となりました。町税の中の町民税を増やすために27年度は町長の公約でもある小児医療費助成を中学3年まで拡充や、待機児童解消に向けた駅前保育園開園策など子育て世代に、選ばれる町として定住人口確保に向け、未来への投資を開始した年ではありますが、道半ばであり、平成26年度決算の町税減収 1,988万をはるかに上回る減収となりました。複数の要因があるものの、少子高齢化により「稼ぐ力」が二宮町で衰えてきているという事実が切迫しています。現在の人口の推移からすると、増収の見込みが大幅に、伸びることは考えにくい状況は明らかです。</p> <p>そこで、町長に伺います。安定的で継続性がある自主財源確保を今後どのようにしてゆくのか、考えを伺う。</p> <p>2. 財源の削減方策として、町民サービスも向上し、経費の節減が図れる可能性が高い、指定管理者制度があります。県や近隣自治体では、導入している事業も多く、スポーツ施設など民間の手法を用いて、弾力性や柔軟性のある施設の運営を行っています。第4次二宮町行政改革大綱には、指定管理者制度の導入を推進していくとありますが、これ以後事業抽出はしているのか、どの位のスピード感をもって導入していくのか進捗状況を伺う。</p> <p>3. 防災対策として、災害発生時に町災害対策本部と地区本部が直接通信が取れないところが8箇所残っております。これから2年をかけて配備するとありますが、近年の災害の大きさからすると、この時間は「災害に強い町づくり」と整合していると考えられているのか。また、自らを助ける「自助」や家族や地域コミュニティーと力を合わせる「共助」について町民に十分に理解していただく知識は行き渡っているのか、この点を踏まえて、町長に伺う。</p>

2	根岸ゆき子議員	<p>27年度は村田町長の予算編成初年度であり、29年度予算編成が1期目の折り返しとなる今、その振り返りと今後に対する考えを問う。</p> <p>1. 町長は就任してから何にこだわりを持って町政を進めてきたか。予算議会で「緩やかに町を小さくしていく時期である」と発言している。また町単独ではなく国の予算を活用してできている事業もあり、バランスをみながらの町政運営となる。大きな事業の予算確保は国の動きに影響される一方で、町長がまちづくりで大事にしてきたもの、苦労した点、これは譲れないという原点、政策決定過程のプロセスの中で優先を上げるものなどはあったのか、町長としてこだわりをもったものがあったのかを問う。</p> <p>2. 「だれもが主人公になる町」とし町民参画をうたってきた。移動町長室の成果はどうだったか。改善点も見えてきているのか。また、町民発のアイデア・事業を活かす手法は確立されているのか、されるのか。職員の提案制度などはあるのか。</p> <p>3. 予算編成の透明化について。 私は、職員の業務負担が過度にならないようなやり方を模索していると捉えている。予算編成過程を公表しながら町民と作る予算実現は可能なのか。選挙時の政策集には、議会が町民意見をきき議会とともに予算編成を実施、とも書いている。議会では町民との相互通行や政策提言にむけ試行錯誤を繰り返しつつ前進を目指している中で、町民意見の反映の難しさも実感している。議会・行政・町民の3者の流れがもっとスムーズにいくようなシステム作りの可能性を町長と議会で模索することはできるのか。</p> <p>4. 強い組織作りについて。 村田町長は、まちづくりは最初を守るべきところを決めることがポイント、として町づくり条例の制定や空き家バンク制度の導入に着手した。まちづくり条例は作られるのか。 また、予算議会で町長は図書館人件費削減計画を凍結した。強い組織作りの一環で発表されたものではないにしろ、計画の進行、修正などを考えることは強い組織作りに他ならない、凍結発表をした計画はそのままにされるのか、廃止されるのか、修正されるのか。</p> <p>5. 東大跡地と小児病院跡地利用について。 公共施設再配置計画の未利用地の検討委員会にはかかれているが、町の考えをだしていないようにも見える。町の考えはどこに反映されているか。</p>
---	---------	--

3	小笠原陶子議員	<p>1. 地域包括ケアシステムの構築に向けてその進捗状況を伺う。  町は高齢者保健福祉計画と介護保険計画にのっとり、高齢者支援を行っている。  28年度は機構改革で地域包括ケアシステム班を設置し、スピードアップで取り組んでいるようである。いよいよ、29年から総合事業や協議体がコーディネーターのもとに動き始める。どこまで進んだか確認する。また、そのことをいかに町民に理解していただくかが重要だ、周知の在り方について伺う。  今年度は二宮町地域福祉計画を策定しているが、その住民参加はどうなっているのか。  また、地域でミニデイサービスに使われている集会施設のバリアフリー化は、速やかに進めなければならない。トイレや机椅子など足腰が弱い方が喜んで集まれるよう優先順位を決めて実施すべきだがどうか。  先駆的な取り組みとなっている一色小学校地域再生協議会福祉部会の活動をどのように生かしていくのか確認する。</p> <p>2. 町北部の定住促進について。  町はまちづくりを、総合計画に基づき進めている、その下部の計画として都市マスタープランがある。二宮町を4つのエリアに分けて、その実態と課題を分析している。東部、西部、中部、北部である。二宮町は毎年人口減少が続いているが、その一番顕著なのが北部である。小学校の在籍人数を見ると焦燥感にかられる。一色小学校の1年生は1クラスしかなくそれも26人である。一方、二宮小学校は3クラスある。マスタープランには、「地域の主要方針」として 其他市街地の住宅地、老朽化が進んでいる県営住宅等については、安全で快適な居住環境の維持・更新に向け、耐震改修や建て替えを関係機関に働きかけていきます。と明記されている。幸い、県住宅供給公社は魅力ある環境づくりのために、新たな計画が動き始めた。あとは県営住宅と、サンコーポラス（旧雇用促進住宅）の今後の活用が課題である。町が傍観せずに、環境改善に動くことを望むがいかかか。</p> <p>3. 公共施設再配置・町有地有効活用等について。  28年度は公共施設再配置・町有地有効活用等検討委員会の2回目が開催された。  二宮町の公共施設の維持管理には老朽化のため莫大な費用がかかり、更新コスト245億円に対し、確保できる投資額は64億円と言われている。そのため、各議員の一般質問や予算決算特別委員会で様々な質問が出る。そのたびに町は公共施設再配置・町有地有効活用等検討委員会の意見を待つと答弁してきた。その委員会への期待は大きいですが全部で3回開催の委員会でしっかりした答えが出るのか問う。</p>
---	---------	---

備考：2番目の質問開始時刻は、直前の質問終了後となりますので、不確定です。